

# 東日本大震災の復興を祈念して

東日本大震災からの復興を語り継ぐ桜



——— 街に、ルネッサンス ———



UR

UR都市機構

# 震災復興を祈念して

平成23年3月11日、太平洋沿岸部の広範囲に甚大な被害をもたらした東日本大震災。

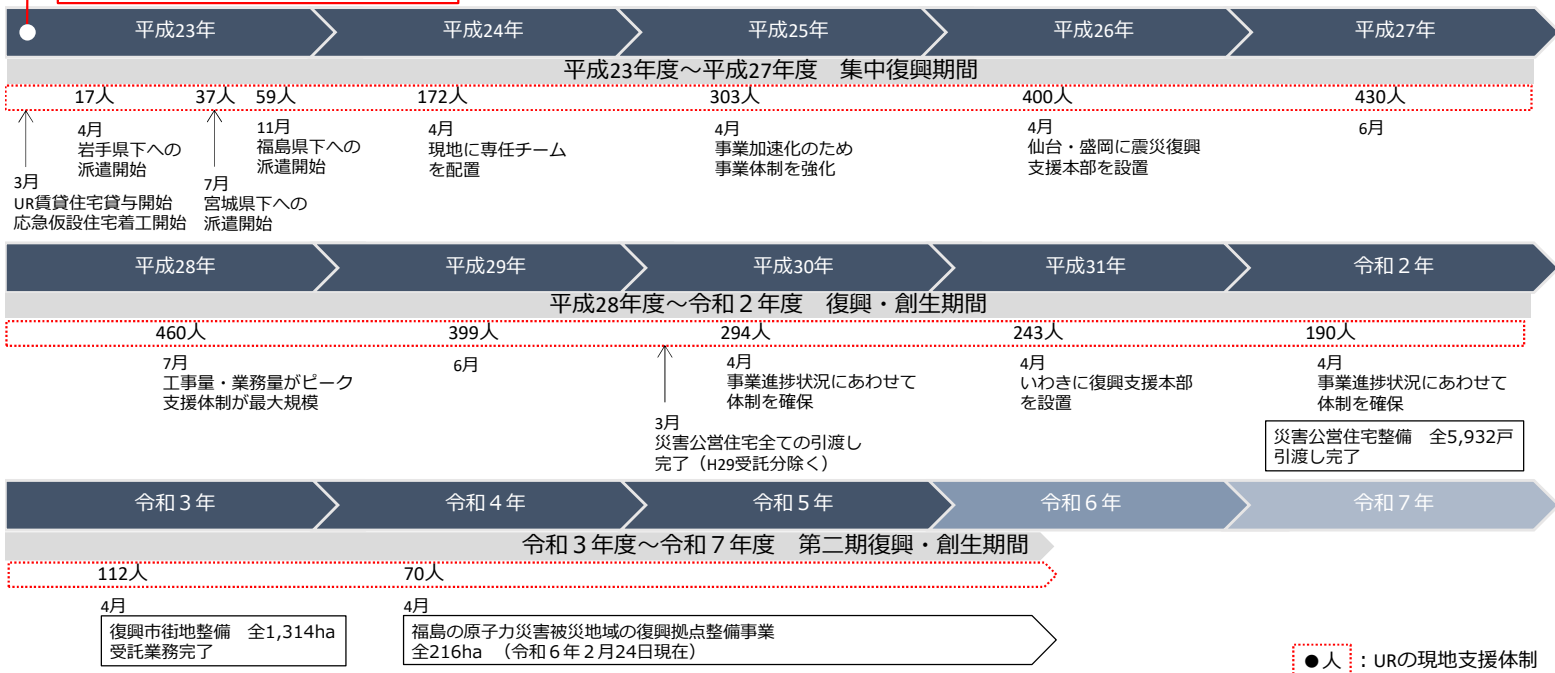
URでは、東日本大震災発災直後から様々な復興事業に携わり復興支援を行ってきました。そこで、復興支援を行った事業地区の樹木を祈念植樹することで、東日本大震災への教訓と復興の記憶を継承していくこととしました。

祈念植樹される樹木の種類は、古くから日本人に愛されてきた桜を選びました。被災地域においても桜を用いた景観形成は数多く行われており、復興のシンボルとしても扱われています。

震災および復興について語り継がれることを願い、URが携わった事業地区である宮城県女川町と岩手県陸前高田市の桜を復興のシンボルとして、ヌーヴェル赤羽台（東京都北区）に隣接する「URまちとくらしのミュージアム」に植樹することになりました。

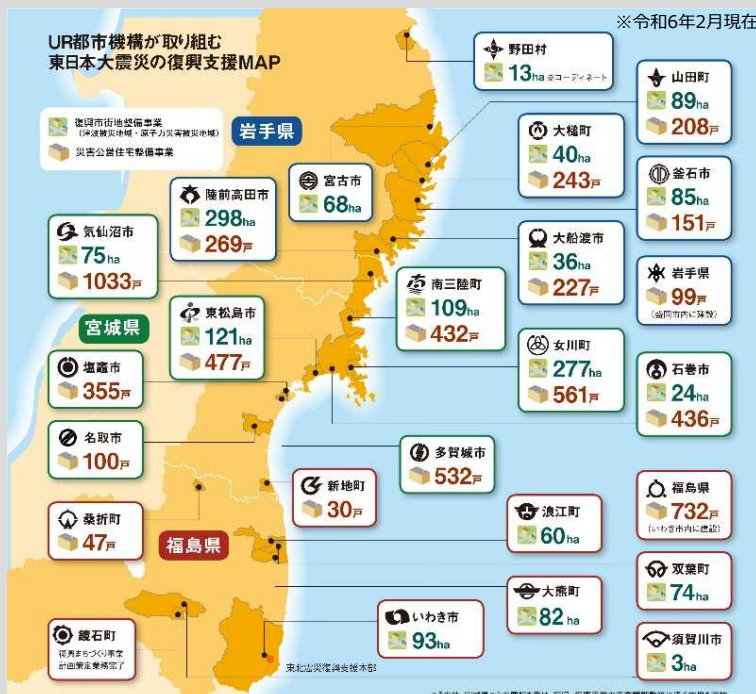
## URの復興支援のあゆみ

平成23年3月11日 東日本大震災発生



## UR都市機構による復興まちづくり支援の状況

26の被災自治体において、復興市街地1,530haの整備、災害公営住宅5,932戸の建設等を行い、被災自治体の復興まちづくりを支援しています。（令和6年2月現在）



### 復興市街地整備事業

- 津波の被害を受けた地域で、高台移転や盛り土によるかさ上げで安全なまちを整備する事業(令和3年度すべて事業完了)
- 福島県での原子力災害により避難を余儀なくされた市町村において、復興の拠点となるまちを整備する事業

### 災害公営住宅整備事業

- 仮設住宅等にお住まいの被災された方々が安心・継続してお住まいいただくための住宅を整備する事業(令和2年度すべて事業完了)

### 復興まちづくりコーディネーター業務の実施

- 被災自治体からの委託により、まちづくりの実績や技術力を活かし、復興まちづくり事業計画策定業務、工事発注支援業務等を実施

# 女川町から受け継いだ 東日本大震災からの復興を語り継ぐ桜



## 1 宮城県牡鹿郡女川町 旧女川第二小学校のソメイヨシノ

旧女川第二小学校の校庭にあった桜は、復興の過程で伐採されることとなりました。伐採前に女川桜守りの会によって取り木が行われ、その一本を受け継ぐこととなりました。



現地で咲いていた姿

## 2 宮城県牡鹿郡女川町 旧女川第一中学校のヤマザクラ

旧女川第一中学校は小高い場所にあったため、辛うじて津波を逃れました。その敷地斜面に残った桜を接ぎ木し、その内の一本を受け継ぐこととなりました。



現地で咲いている姿



旧女川第二小学校



旧女川第一中学校

## 宮城県女川町の支援概要

URは女川町とパートナーシップ協定を締結し、中心部に加え、離半島部も含めた町全体の早期復興に向け、総合的に町をサポートするため様々な事業を受託し、町とともに復興事業を進めました。市街地整備にあたり、中心部では「海を遮らないまちづくり」を掲げ、防潮堤機能を兼ねた国道とその背後の市街地全体を嵩上げし、公共や商業、水産加工業エリアを整備、居住地は高台に移転しました。まちの中心部に都市機能を集約することで、復興とともに将来を見据えたコンパクトシティへの再編を実現しました。



女川駅前レンガみち周辺地区（提供：女川町）

# 桜の継承に関わった方の声

## 復興支援事業に携わって

沖田敏浩さん（2019～2020年 女川復興支援事務所 所長）

Q：当時の沖田さんの震災復興事業との関わり方について教えてください。

2019～2020年の2年間、女川復興支援事務所所長として復興事業に携わらせていただきました。着任時は既に災害公営住宅の整備は完了しており、主に基盤整備工事が行われていました。

Q：この基盤整備工事の一つに都市計画道路工事があったのですね。

はい。旧女川第二小学校の校庭と道路の間に桜が残っていましたが、都市計画道路を整備するにあたり、この桜を伐採する必要がありました。

Q：この桜は残すことは難しかったのでしょうか。

工事を進めるにあたり、町長、都市デザイン専門家、設計・施工者、町民などが参加する女川町復興まちづくりデザイン会議の中でこの桜を保存できないか議論され、桜を残すための計画案が検討されましたが、保存することができず伐採されました。

この時桜が切られる前に、女川桜守りの会で取り木を行っていたそうです。

Q：今回、祈念植樹される桜の内の1つですね。

URが女川町から基盤整備工事を受託し、その際の道路整備によって伐採を余儀なくされた桜の子孫を祈念植樹することで、その桜の云われとともにURの復興事業を継承していくため、女川町の仲介により女川桜守りの会から苗木を譲り受けることとなりました。

（令和4年3月2日）



伐採される前の桜



整備された都市計画道路  
（赤丸部分が桜のあった場所）

## 女川町の桜を守り育てる

藤中郁生さん（女川桜守りの会 事務局長）

Q：女川桜守りの会は、どのようなきっかけで始まったのでしょうか。

最初は、被災後旧第二保育所に残った桜が咲き、これを保護しなければという思いから活動が始まりました。主に4、5人で活動していますが、作業の時は多くの町民の方々が集まってくれます。

Q：活動を行う上で苦労されていることはありますか。

女川町の地盤は岩盤のため硬く、苗木を植えるための穴を掘ることは大変です。植えたとしても根の張りが悪く、何年経ってもなかなか育ちません。

シカの食害もあります。シカの顔が届く範囲の枝は食べられてしまうため、丈の高い苗木を植える対策をしています。季節によっては、オス鹿が角で幹にこすりつける角研ぎにより、幹に傷がつけられることもあります。効果があると聞けば様々な対策を試しています。

桜の手入れは手がかかります。この先、何十年に渡って桜の面倒を見ていかなければなりません。そのためには、若い人に関心を持って育ててもらう必要があります。桜管理の養成講座を行ったり、女川町の小学生を対象とした講座を行う活動もしています。

Q：今後の活動について教えてください。

これまで女川町を中心に約400本の桜を植えて来ました。今後は、女川の土手沿いに1000本ほどを植えて行きたいと思っています。この活動の成果が出るのは、50年後、100年後ですが、地道に活動していこうと思います。

（令和4年2月21日）



旧保育所の桜は残念ながら枯れてしまいましたが、その幹は、震災と津波の伝承、犠牲となられた方々の鎮魂を願うお地蔵様となり、駅前商店街の一角に据えられました。年2回ほど「お地蔵様の市」が行われ、桜の花が咲いていた時と同様、地域の方々の集まるきっかけとなっています。

# 陸前高田市から受け継いだ 東日本大震災からの復興を語り継ぐ桜



## 岩手県陸前高田市 本丸公園のヒガンザクラ

本丸公園は小高い丘にあり、東日本大震災では避難所としても機能し、令和3年9月に憩いと防災の場として改修整備されました。多くの人が避難した場所の桜を接ぎ木し、その内の一本を受け継ぐこととなりました。



現地で咲いている姿



天照御祖神社（本丸公園）

## 岩手県陸前高田市高田地区の支援概要

URは、陸前高田市の中心部である高田地区と歴史性の高い今泉地区の2地区で、復興整備事業を市から受託しました。

高田地区の高台には、住宅地のほか、県立病院、保健センター、小学校などの公益施設用地を整備しました。かさ上げ部には中心市街地を集約し、物販、飲食、集客、観光、業務施設のほか、図書館、文化会館、BRT駅などの公益施設が立地しています。かさ上げを行わない平地部は市の用地を集約して、産業用地や公園、農地等として活用しています。



高田地区中心部

# URまちとくらしのミュージアムに植えられるまで①

## 接ぎ木による苗木づくり (令和4年2月～4月)

旧女川第一中学校のヤマザクラ  
陸前高田市本丸公園のヒガンザクラ

接ぎ木は、すでに根を張っている桜の木(台木)に増やしたい桜の木の枝(挿し穂)を接着させて育てる方法です。植物には傷ついた部分を塞ごうとする性質があり、その性質を利用して2つの植物を接ぎます。やや難易度が高いですが、最も生長が早く、台木と挿し穂の特性を活かし、病害虫や環境ストレスに強い苗とすることができます。

### ①挿し穂の採取(令和4年2月中旬)



芽が動き始める前に、挿し穂に用いる枝を切り取ります。



切った枝は、包みやすいようにまとめます。

#### POINT

芽がある部分を選びます



切り取った枝は、すぐにビニールシートで二重に密封します。切り口を乾燥から守るためと、雑菌に触れないようにするためです(桜は切り口から腐朽菌が侵入しやすいため)。

密封後は、次の作業を行うのに適した時期まで、芽が動き出さないよう冷蔵保存します。

### ②台木への差し込み(令和4年3月中旬)

#### 挿し穂の準備



差し込み用に適した大きさ(約5cm)に切ります。

#### POINT

枝には、芽が2～3個付くように切ります

#### 台木の準備



植え込み用に整えます。

#### 台木への差し込み



台木に挿し穂を差し込むため切り込みます。

#### POINT

外側から数mm内側の場所に、垂直に切り込みを入れます



挿し穂を台木に差し込み、テープで固定します。



次の作業を行うのに適した時期まで、保存します。

#### POINT

挿し穂の切り口は斜めに切り、差し込む部分の樹皮をナイフで剥ぎます

### ③畑に植える(令和4年4月上旬)



暖かくなり芽が動く前に畑に植えます  
挿し穂自体の力で先に芽がでます。発根するまでには1～2カ月、長いときには3カ月ほどかかります。  
台木から枝が伸びた場合は、挿し穂の成長を妨げてしまうため切り落とします。

# URまちとくらしのミュージアムに植えられるまで②

## 取り木による苗木づくり (平成23年5月～9月)

【写真提供：女川桜守りの会】

旧女川第二小学校校のソメイヨシノ

桜が切られる前に、女川桜守りの会にて取り木による苗木づくりが行われました。

取り木は、増やしたい木の幹に傷をつけたり幹の皮を剥いで幹の途中から根を出させ、発根したらその部分を切り離すことで新たな苗木を得る方法です。根が出たことを確認してから切り離すので失敗が少ない利点があります。

### ① 幹の皮を剥く (平成30年5月中旬)

**POINT**  
若い幹の方が成功率が高い



幹の皮を剥きます。剥いた部分に、十分に水を吸わせたおいた水苔を巻き付けビニールで包み、上下をひもで縛ります。

**POINT**  
乾燥させないよう注意



下側は水分が抜けないよう少しきつめに、上側は水分を補給出来るようやや緩めに縛ります。水苔が乾いてきたら湿らせてやります。

### ② 苗木の切り離し (平成30年9月中旬)



根が出たことを確認し切り離します。切り離した後は土に植えます。

この苗木を、令和3年11月に女川桜守りの会から譲り受けました。

## 育苗

(令和4年4月～令和6年2月)

保存していたヤマザクラ、ヒガンザクラの挿し穂、そして譲り受けたソメイヨシノの苗木は、令和4年4月に畑に植えられ、令和6年2月まで事業地区と同じ東北の地で育てられました。

当初は15センチメートル程だった苗木は、約2メートルまで成長しました。



令和4年5月



令和4年9月



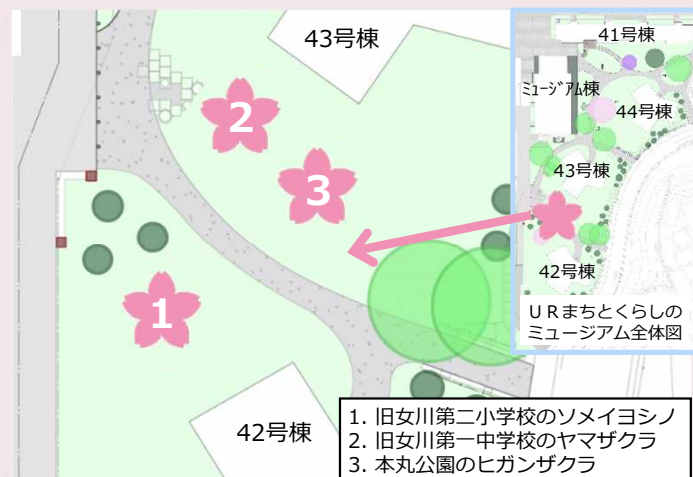
令和5年8月

## ミュージアムへ植樹 (令和6年2月)

令和6年2月24日、「東日本大震災からの復興を語り継ぐ桜」植樹式にて、関係者の皆様とともに、URまちとくらしのミュージアム敷地内（東京都北区）に植樹しました。



植樹式の様子



植樹場所

1. 旧女川第二小学校のソメイヨシノ
2. 旧女川第一中学校のヤマザクラ
3. 本丸公園のヒガンザクラ

東日本大震災の復興を祈念して 東日本大震災からの復興を語り継ぐ桜

令和6年3月発行

発行：独立行政法人 都市再生機構

震災復興支援室

技術・コスト管理部 環境技術課

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー

<https://www.ur-net.go.jp/>

企画：独立行政法人 都市再生機構

震災復興支援室

技術・コスト管理部 環境技術課

製作：(株)URリンクージ

表紙写真提供：女川桜守りの会